

# 愛知県総代幹部研修会開催される

総代幹部研修会が平成28年6月13日、熱田神宮会館において県神社庁・県神社総代会共催(企画:県教化常任委員会)で開催された。当日は県内より124名の参加があった。熱田神宮を正式参拝後、開講式では小串和夫庁長の代理として牧野武彦副庁長が「県内各地より多くの方にご参加いただき、感謝申し上げます。本年は神社本庁設立70周年という節目を迎えるが、先人は終戦の苦難を乗り越え、一致団結して今日に至っている。今日、神社を取り巻く環境は厳しいなか、限界集落と呼ばれる、氏子がない地域も見られる。また都市部も人口の空洞化、多様な価値観をもつ人々が暮らすなか、大変だと伺っている。先人の労苦に思いをはせ、いかに日本の伝統や文化を守っていくのか、喫緊の課題であると思われる。本会が実り多い研修会になることを期待したい」と挨拶された。

引き続き県神社総代会副会長神尾俊治氏が「長時間であるが、ゆったりした気持ちで研修に臨んでいただきたい」との挨拶があった。



吉田宮司講演



講演会全景

午前の研修では「神宮大麻増頒布の試み～氏子の変容と都市化への対策～」と題して、城山八幡宮宮司の吉田玄氏からご講演いただいた。吉田講師は大麻頒布の経年経過や神棚アンケートの結果等、様々なデータを含めて、大麻頒布活動の実践について報告された。社頭における看板の設置、新聞の折り込み、簡易神棚の無償頒布は反響が大きく、ホームページでの告知は特に新しい崇敬者層を拡大することにつながり、反響があり、結果として神宮大麻増頒布に有効であったことが報告された。講演の最後に天皇皇后両陛下が作詞作曲された琉歌(「歌声の響き」)を紹介して閉じた。



貝塚先生講演



修了証授与

次いで午後からは、武蔵野大学教授の貝塚茂樹氏による「戦後 70 年と道徳教育」と題する講演が行われた。氏は、戦後の教育史を振り返りながら、その教育は劣化しており、それはイデオロギーの対立として二度の「戦後」を経験していると指摘。第一の戦後は敗戦による思想的な思考停止であり、第二の戦後は高度経済成長を経験しての経済優先・自己優先、つまり生活的な思考停止であると説明された。その上で、教科としての道徳がなぜ必要であるのかに触れ、道徳教育を再生していくために、平成の徳育論争が必要であると締めくくった。

最後に受講者の代表に修了証が手渡され、三浦正典教化委員長からの総括があり、研修を終えた。